

平成23年度東アジアプログラム研究報告

○プログラム名

孔子思想の歴史学的研究

○研究組織

高木智見

○研究の概要と結果

本プログラムの目的は、中国史上、最大の転換期である春秋時代末期に生きた孔子が、自らに課せられた歴史的課題といかに格闘したのかをさぐることによって、真の孔子像に近づくことである。本年は、その歴史的課題を具体的に理解するため、伝統中国における国家と農民の関係を「民の父母」なる語に着目して明らかにすることに務めた。その成果をシンポジウムで報告するとともに、論文としても発表した。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

高木智見「中国における国家と民の関係—民の父母を中心として」、『研究論集』第10集、2012年12月、27～62頁

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

高木智見「中国における国家と民の関係」、シンポジウム「現代中国農民運動の意義—前近代史からの考察」2012年7月12日

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

○プログラム名

東アジアにおける多様性を維持する情報通信技術利用の機序

○研究組織

成富 敬

○研究の概要と結果

情報通信技術は、数十年来「いつでも、どこでも、だれでも」を掲げた研究と技術開発が展開されており、一定の成果を挙げてきた。そして、社会におけるさまざまな情報の蓄積や交換が効率的におこなわれるようになり、情報通信技術を核とするあらたな変革が起きている。

情報通信技術は社会のあり方そのものにも影響を及ぼす技術のひとつであり、上手く活用すれば社会の安定的な存続に役立てることができる。しかしながら、情報通信技術が優位な立場を獲得するための競争に重きを置いて利用されている現状、並びに情報通信技術が目指すべき高みに思いを馳せたとき、その技術水準は未ださまざまな芽がせめぎあう揺籃期にあるといえる。

今後、情報通信技術の標準化が進行し、「いつでも、どこでも、だれでも」が最新の基盤を利用できるようになる。いっぽう、利用する主体は、多様な歴史的文化的背景を持つ人間であり、機械技術としての情報通信技術がいかに高度化し標準化されようと、利用主体である人間の多様な文化を存続させ得る個別化が不可欠である。

現代社会において急速に進む共有化、共通化、標準化の流れの中で、さまざまな競争がおこなわれている。競争はたしかに、生物としてのヒトの特性かもしれない。にもかかわらず、人は過度の競争を抑制し、社会全体の安定を追求するだけの英知と可能性を秘めた生き物のはずである。

そこで、多様性を内包し標準化と個別化との中庸を得た情報通信技術利用の機序を明らかにすることは、均一化を回避し社会の安定的存続を可能とする。

本研究では、標準化と個別化という視点に冗長性という観点を導入し、多様性を維持することのできる情報通信技術の機序を明らかにすることを目的とする。本研究は、基礎的考察の段階にあり、論文として結実した成果はない。

○研究成果の一覧

- (1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）
 - (2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）
 - (3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）
-

○プログラム名

資産課税の国別比較研究

○研究組織

仲間瑞樹

Eureka Putra(RA)

○研究の概要と結果

本研究は発展途上国の資産課税の現状を把握し、発展途上国における資産課税の位置づけを明らかにする研究である。

まず研究者である仲間の指導院生の出身国であるインドネシア国の資産課税の現状から把握する予定であった。しかし仲間が、東アジア研究科に2011年後期から正式に加わったため、本プログラムの申請も平成23年11月1日から平成24年3月末までの申請となった。また仲間がBangladesh国からの留学生面接、講義提供のため、平成24年1月、2月のほとんどをBangladesh国に滞在していたため、税制や経済に関する研究書を購入し、文献研究を行える段階で平成24年3月末を迎えた。さらに2012年度は、仲間の東アジア研究科での指導院生の指導に専念したい理由から、資産課税の国別研究の申請を東アジア研究科にしていない。

以上の事情から、資産課税の国別比較研究は、現在、ストップしている状況にあり、研究結果は得られていない。また成果発表も行える状況にない。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

(1) なし

(2) なし

(3) なし